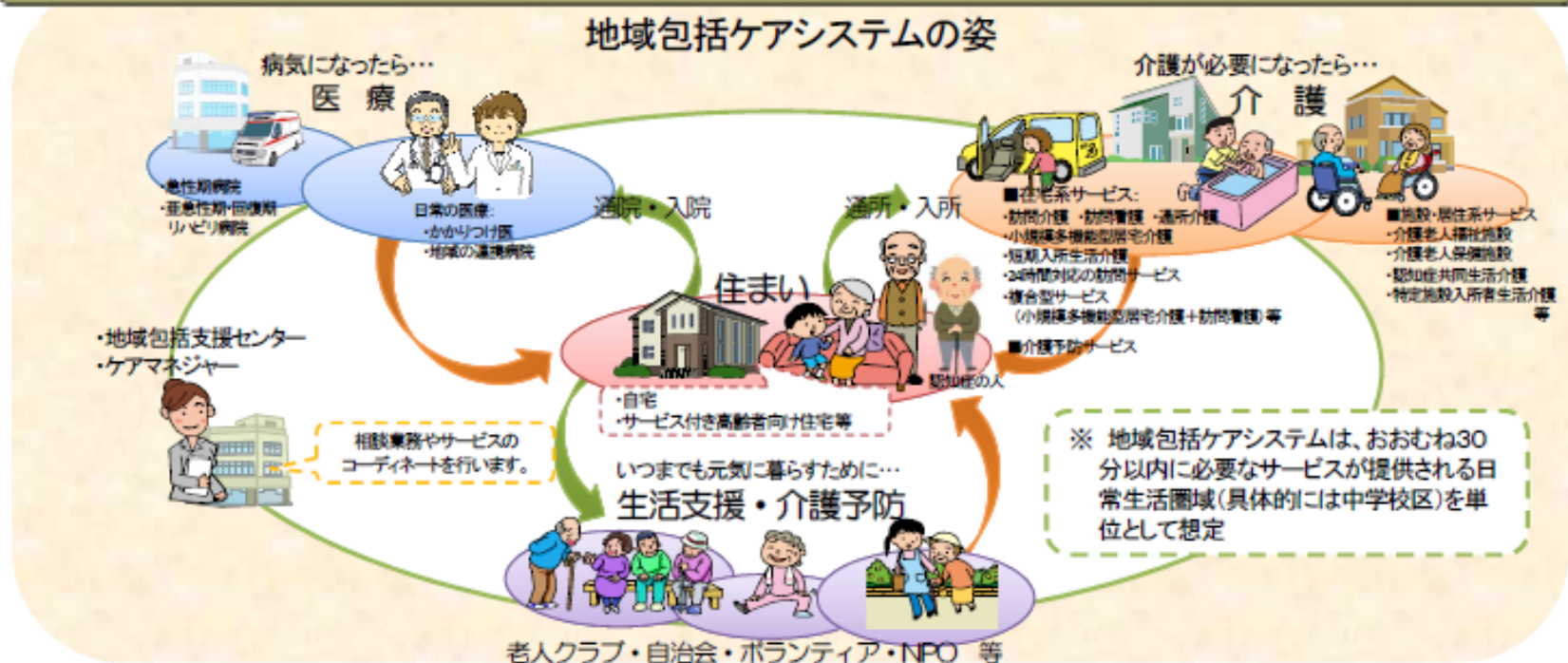


地域ケア会議について

～地域包括ケアシステムの構築に向けて～

地域包括ケアシステムとは

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。**
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。**



地域ケア会議とは

地域ケア会議は、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けた手法。

具体的には、地域包括支援センター等が主催し、

- 医療、介護等の多職種が協働して高齢者の個別課題の解決を図るとともに、介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの実践力を高める。
- 個別ケースの課題分析等を積み重ねることにより、地域に共通した課題を明確化する。
- 共有された地域課題の解決に必要な資源開発や地域づくり、さらには介護保険事業計画への反映などの政策形成につなげる。

地域包括支援センターでの開催 (高齢者の個別課題の解決)

- 多職種の協働による個別ケース（困難事例等）の支援を通じた
 - ①地域支援ネットワークの構築
 - ②高齢者の自立支援に資するケアマネジメント支援
 - ③地域課題の把握などを行う。

〈主な構成員〉
自治体職員、包括職員、ケアマネジャー、介護事業者、民生委員、OT、PT、ST、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士その他必要に応じて参加

※直接サービス提供に当たらない専門職種も参加

地域課題の把握

地域づくり・資源開発

政策形成

介護保険事業計画等への位置づけなど

市町村での開催
(地域課題を解決するための社会基盤の整備)

印西市における地域ケア会議の構成

地域思いやりケア会議

- 【目的】 個別課題の解決、ネットワークの構築、支援困難事例の検討等
- 【出席者】 事例に関する幅広い関係者
- 【事務局】 地域包括支援センター



地域ケア推進会議

- 【目的】 個別地域ケア会議で把握した地域課題や、関係者が把握している地域課題の検討等
- 【出席者】 地域課題や地域の実情により設定する
- 【事務局】 地域包括支援センター



印西市ケア会議

- 【目的】 各圏域では解決できない課題の解決を目指す
- 【出席者】 会議のテーマに合わせて設定
- 【事務局】 印西市役所高齢者福祉課

本日の会議



令和4年度の圏域ケア会議から 見えてきた課題

お金に関すること

- 生活困窮
- 負債
- 金銭管理が出来ない

判断能力に関すること

- 認知症
- 精神疾患
- 判断能力の低下

支援拒否
介入困難

家族に関すること

- キーパーソンが不在
- 親族との関係性が悪い
- 天涯孤独
- 親族が精神疾患

その他

- 地域との関係性が希薄
- 特定の支援者しか受け入れない
- 他機関との連携



歳を重ねても、障がいを持ってても、
誰もが暮らしやすい地域づくりのため、
どんな取り組みができるかを
一緒に考えていただければと思います。
ご協力お願いいたします。